

100年生きた家具を さらに数十年使えるようにする

店先に所狭しと並べられた和家具と通りに面した修理場から聞こえる音とニスの香り。明治、大正、昭和初期の時代和家具を現代流にレストアする職人が考える和家具をレストアする魅力とは？



アンティーク山本商店
山本明弘さん

昭和20年に創業した和家具専門店の3代目。大学卒業後、和家具レストア職人の道へと進むために祖父に弟子入り。和家具のレストアだけでなく、仕入れやアフターサービスも手掛ける



★アンティーク山本商店

東京都世田谷区北沢5-6-3
☎03-3468-0853



下 北沢からほど近い場所にある時代和家具の店「アンティーク山本商店」には、年配の方はもちろん、若者や外国人など多くの人が訪れる。「子どもの頃からおじいちゃんが軒先で家具を直しているのをワクワクしながら見ていました。仕上げにニスを塗ってピカピカになった家具を得意げに見せるんですよ」

3代目の山本明弘さんは懐かしそうに振り返る。大学在学中に家業を手伝ったときに和家具の修理・販売の面白さに目覚め、卒業後も就職せずにアンティーク山本商店で修業を続行。その中である考えが芽生えたという。

「祖父や父の頃、和家具は買った人が自分で手を加えてゆくの一般的なでした。だから多少たてつけが悪くても「こゝ、動きが甘いから安くしてよ」「仕方ないな。1000円引くから自分で直しな」という感じで、修繕も楽しみのひとつになったんですね。でも今はそんな手間をかける方はまずいません。引き出しは指本でも開く、ガラスなどはしっかり磨かれているなど、買ったらすぐ使えることが大事なんです」

人々が当たり前のよう求める高いレストア技術に応えられるよう職人全員が腕を磨く。また、時代和家具が作られた当時と現在では生活様式も大きく異なるため、要望も変わってくる。「例えば明治時代の桐箆箱は純和風の部屋に置けば様になりますが、白いクロスにフローリングのマンションに置いても部屋全体になじみません。そこで時代和家具ならではの良さを残しながら洋式の生活の中にも溶け込むようアレンジを加えることにしたんです。思い付いたのはオイルステインという塗料を塗った上でニスで仕上げる方法。これにより桐箆箱に輝きが生まれたんです」

アンティーク山本商店のレストア職人として10年間腕をふるう布施勇氣さんはこう話す。「家具として使えるよう傷みは修復しますが、例えばちゃぶ台についてたタパコの焦げや熱いやかんの跡は、味になる。そのあたりを残しつつ現代の生活に合うようにする。バランスに気遣いながらレストアしていくのが職人としての楽しさであり難しさでもあるんです」

昭和40年代頃からは大量生産の時代に入り、家具も壊れたら買い替えるのが当たり前になったが、その一方で時代和家具は職人が手を加えながら何世代にも渡り受け継がれてゆく。「現代風にレストアしても、当時の職人の心意気をないがしろにしたら意味がありません。うちを通った家具は再び長く使えるように仕上げる。ここだけは譲れないですね」

時代和家具はこうして甦る

- 1 修繕箇所を探す**
まずは全体を眺め調子が悪い原因を探すと同時に工程をイメージする。この本棚はくさびがふたつなくなり、ぐらついていた
- 2 不要な釘を外す**
この本棚にはオーナーが自分でつけたベニヤの背板がついていた。板を削ぎ、打ち込まれた釘を一本ずつ外していく
- 3 欠品部品を作る**
既存のくさびを元に木の上に型を作り、糸のこを使って部品を作る。この段階ではまだ粗削りの状態で構わない
- 4 形を整える**
グラインダーを使い角を丸めると同時に本棚にピッタリはまる厚みに仕上げる。途中何度か試しにはめてみながら調整していく
- 5 下地が完成**
あて木の上から玄翁で叩き、隙間なくはまることを確認。欠品した2カ所にくさびをはめることでぐらつきがなくなった
- 6 色つけ**
オイルステインを使って塗装。はけを使うと毛の筋がついてしまうので、タオルに塗料を染み込ませ、木目に沿って拭くように塗ってゆく
- 7 ニス塗り**
全体を乾拭きした後（隙間は皮すきにタオルを巻いて拭く）、ニスを塗り新しく部品を継ぎ足したことが分からないよう仕上げる

布施勇氣さん

若い頃から家具に興味を持ち、なかでも和家具に惹かれ、その修理を仕事にしたいという思いが強くなり10年前にアンティーク山本商店の門をたたく

レストアに欠かせない道具たち



A 皮すき／隙間に差し込み裏板を削がしたり、表面についた汚れを取ったりなど使用頻度の高い道具。布施さんは握りやすいよう持ち手を丸く加工して使っている **B 玄翁（げんのう）**／頭部の両端がとがっていない金づちをこう呼ぶ。皮すきと同じように持ち手を少し削り握りやすいようにした **C 頭切り**／本来は打ち込んだ釘の頭を切り目立たなくするための道具だが、布施さんはくさびの代わりに打たれた釘の頭部分に刃先を差し込み引き抜くときに使っている **D グラインダー**／木材の形を整えるときに使用 **E あて木**／玄翁で叩くとき家具に傷をつけないようあて木の上から叩く。「これが一番しっくりくる」とナラの木で作られた椅子の足を使い続けている